

議題 『現在の門限午後 10 時を 11 時にして下さい。』

ビバハウス 責任者 安達 俊子

- 1) この度、ビバハウスの基本的な生活ルールの門限と個室に入る時間との変更を求める 10 名のメンバーの署名をつけた文書が Y さんよりビバハウスに提出されました。これはビバハウス創設以来のことでもあり、ビバハウスの生活ルールの基本に関することでもありますので、全体ミーティングで説明をすることにしました。(文書の内容は、「門限を、現行 10 時を 11 時に、個室へ入る時間は、10 時を 11 時半に、それぞれ遅くしてほしい」との内容です。)
- 2) これに対しては、私たちスタッフならびに責任者として、適切な回答をするためには、何のためにビバハウスを創ったのか、またどんな人たちを受け入れてきたのかを説明する必要があります。
- 3) 聞いて頂きたい。ビバハウス誕生のきっかけは、ひとりの北星高校卒業生の女性の、『俊子先生、たすけて!』という電話でした。彼女を救うためには、彼女を私たちが引き取って、一緒に生活する以外に方法がないと決断した私たちは、一緒に生活する場としてビバハウスを創ったのです。このスタートと同時に私たちは、ビバハウスの目的を次のように決めたのです。『子どもたち、若者たちはこれからの日本社会を背負っていく、大切な、大切な存在。社会的に自立をしたいと願う若者にこの場を提供し、仲間とともに、自らも社会を支えられる人間になれるよう応援できる場としよう。』
- 4) それで、入所を希望する若者たちの生活の場であるビバハウスの基本的な生活ルールを創りました。主なものは、門限、個室へ入る時間、貸し借りの禁止(特に金銭)、朝礼への出席、グループワークへの参加などです。
これらはすべて、これまで話した、社会的自立の目標達成のためです。
- 5) こうしたビバハウスの設立の目的と基本的な生活ルールを知って、入所を希望する若者が、今ここで生活している皆さんを含め全国から来ています。(過去 10 年間で、総相談件数は数千件、総入所利用者は約 750~800 人(短期入所者を除く)このうち約 500 人以上が様々の形での社会参加が出来るようになっていきます)。様々の悩み、問題(自分個人、親との関係、その他)や、あらゆる種類の精神的、知能的、情緒・性格的、肉体的(様々の慢性疾患を含む)困

難を抱えながらも、なお、その悩みや困難を解決して、今の自分よりも一歩でも前へ進みたいとの願いを持っている若者たちを私たちは受け入れてきました。

- 6) 具体的には、昼夜逆転のため、朝起きて、昼体を動かし(学習、労働)夜眠るという普通の人間にとって当たり前なのがなかなか出来ない若者も数多く迎え入れてきました。(このままでは、高校進学も、アルバイトも、もちろん就職も出来ません)。ひとりで自分の計画を立て、計画に基づき、個室でひとりで目標に向かうのが、限りなく困難な若者もたくさんいました。(このままでは、たとえ進学しても、アルバイトを始めても、少しでも困難にぶつかれば、すぐつぶれてしまいます)。これを放置すれば、際限なく、夜の何時までも、漫然と怠惰な生活を送り、自立のためになんらの成果を得られない毎日になってしまいます。いつまでも、誰かと一緒におしゃべりをしたり、遊びをしたりする以外の時間の使い方ができませんでした。
- 7) 入所者の年齢も、15歳から、43歳までと幅広く、必ず数名の未成年者もいます。(北星余市高への入学希望者の多くは未成年です。)
- 8) ビバハウスへの入所条件とは何か？

自らの意志で自立を求め、そのためにビバハウスのルールを守ることを約束したはずです。(従って自立への意志を喪失したもの、このルールを踏みにじるものは、ビバハウスにいる意味がなくなってしまいます。事実、何度注意、指導をしても、全く反省も、新たな決意もないものは、退所して貰います。)

結論 以上に述べてきたことから、総合的に判断をすると、創設以来の基本的生活ルール、特にその中心でもある門限午後10時は、全く変更する必要を認めません。

ビバハウスに入所後相当の日にちがたっているのに、いまだに毎日きちんと朝礼に出れないメンバーがいる中で、門限を遅らせることには、全く合理的な理由がありません。今一番しなければならない事は、このようなだらしない生活を立て直し、当たり前の生活習慣を作り上げることです。この最低のルールを確立できないならば、ビバハウスの若者の自立を目指す本来の任務を果たすことが出来なくなるので、ビバハウスそのものの存在理由がなくなるので、ビバハウスは解散せざるを得なくなります。

今後、場合によっては、一人ひとり全メンバーの本当の気持ちを確かめる必要があるかも知れません。

新しいルールを求めるためには、まず以って、現在の最低の生活基準を全員が完全に守りきることが大前提です。そうして初めて、新しい規律を求める最低の条件が整うのではないのでしょうか？